

IP NEWS

インテリアプランナーニュース

1994.1 VOL.7



- 特別企画：シリーズ「北海道の地域に根づく工芸を訪ねて」-5
- 北海道IP協会支部活動報告
- 北海道IP協会会員紹介
- IP実施例
- 北海道IP協会賛助会員紹介
- 見学会報告

彫刻「ビルカフラマイチャシの壁掛け」

作者 山谷圭司
H500 (1991)
武蔵野美術大学彫刻科卒業
作品写真提供/オフィス メロウ(絵画・彫刻・工芸等、
道内芸術家の作品の企画・販売)060 札幌市北区北7条西2
丁目37山京ビル1007 TEL・FAX 011-756-2771

■特別企画—— シリーズ「北海道の地域に根づく工芸を訪ねて」—5

北の漆工房 星野 仁士さん 札幌市豊平区平岸1条20丁目 ☎811-6970

札幌の中心に近いミュンヘン大橋を渡り左に曲がると閑静な住宅街が広がる。その一角に北海道では数少ない漆工房を開く星野さんを訪れた。

訪問した日は、生憎^{かいく}の雨でしたが仕事の手を休め、心良く我々を迎えてくれました。漆を乾燥するには湿気がなければうまくいかないので、今日は丁度漆には良い日です。

■漆との出会い

吉本 北海道で漆を扱う方は大変少ないのですが、漆の工芸家としての動機を聞かせてください。

星野 僕は、札幌の平岸天神山のおもいでで育ちました。昔、この辺りは、水田とリンゴ園ばかりで自然がいっぱいでした。春先のまだ雪が残っているときに雪の表面が固くなりますね。僕等が小さい時ですから、そのかた雪の上を歩けたんです。林の中のもみじの枝を折りながら歩きまわり元に戻る、そうすると先に折った枝からもみじの樹液がぼとぼと落ちてくるんです。それをなめると、ものすごく甘いんですよ。そういう事が昔から好きでした。また祖父が花屋さんをやっていたという環境も手伝って、いつも自然や植物に接していたいということで、最初は造園や植木を扱う仕事につきました。そこでは茶庭も手掛けていましたから、これはお茶のことも知りたいたいと思い、茶道を学んだ訳です。それで、いろいろな道具に触れている中、漆の持つつややかさに魂をうばわれる気さえたものです。直接、漆というものに出会い、真剣に取り組み始めたのはその時からで、その後京都に修行に行きました。

■御衣塗り

吉本 漆というと日本の文化というところがありますが、星野さんの技法はどのようなものですか。

星野 漆の場合、こうでなければならないというマニュアルはないんですね。

各産地によって、独自の技法がある訳です。下地の素材を生かす溜塗り、拭漆、下地を殺し、漆で塗り込めて蒔絵などの細工を施す輪島塗り等があります。僕の場合、ある程度下地を仕上げた後、錦織などの織物を貼り、透明な漆で塗り込めるんです。「御衣塗り」と命名しています。

透明な漆というのは、塗った時が一番汚いし、黒っぽいのですが、時間が経つにつれて、品質も落ちずに良くなっていくのです。

■地球の資源は「もったいない」気持で

吉本 現在、合成樹脂や化学塗料が一般的な中で漆は日常というより特別なものというイメージがありますが……。

星野 高級な物というより物の価値として良いものと、世間的、社会的通念からの良い物とはちょっと違うと思います。

無理に高級品として売るのはなくて、物の価値として大きな手間をかけて妥協せずにきちんと作った良い物を大事に扱ってくれるというのが良いですね。

今「もったいない」という言葉を使う人が少なくなりましたね。地球の資源は、もったいない物で、大切な物ですから、

それを大事に使いたいという気持ちがあります。

もったいないという気持ちで大事にうまく使えば、ほかの物がぜいたくに使える訳ですから。

漆に対しても同じ心で接しています。

■漆とインテリア

吉本 最後に我々がインテリアに使用したいと思ったとき、例えばテーブルの一部に漆を塗ってほしいという事は引受けていただけるのでしょうか。

星野 勿論、漆なら何でもやります。

自分のやりたい御衣塗り等の工芸作家的な自分と、単なる漆塗りの職人としての自分を使い分けるようにしています。

漆はいろいろな素材に塗ることができます。例えば、ドアや家具取っ手等の金属部分にも。焼き付けの方法もあり、乾燥する時間も短縮でき、錆びる心配もありません。いろいろな色も出せます。当然、木部に塗ることもできますが、乾燥時間は一ヶ月単位で欲しいですね。

本当は「漆は忘れるほどほっとけ」というくらい、乾燥に時間をかけるんです。

本物に対してこだわりを持ち、ここはちょっと違うんだぞ、という粋な感覚をもった人は多いですし、漆を理解してくれる人が一人でも増えてくれるように、諦めてしまわないで努力しなければならぬと思っています。

吉本 本日はお忙しい中、本当に有難うございました。



星野 仁士

1960年 札幌生まれ
1972年 岸村庭園設計にて空間デザイン修業
1975年 京都にて漆修業
1980年 札幌にて独立
1983年 ミュンヘン国際庭園造園賞受賞、日本庭園の漆燈籠制作
1988年 札幌芸術展・工芸の部からの依頼受け出品
1990年 '90明日への茶道美術公募展奨励賞受賞



聞き手：吉本真知子

- 北海道インテリアプランナー協会
- S.L.C.C インテリアコーディネータークラブ

15年前に1回目の大規模な改修工事をし、7年前に一部改修工事をした後の、40坪ほどの美容室の外装及び屋上防水工事を含む、全面的な3回目の改修工事である。

設計のコンセプトは、比較的年齢層の高い固定客、そして増加傾向にある若い女性にも好まれる様な高級感があり、そしてアットホームな雰囲気を持ちつつ、10年経過しても飽きのこないインテリアにすること。

全体的なスペース配分は使用頻度の少なかった以前のスタッフルームを階段室の踊場に設け、店内のスペースを広くし、

美容(髪)に対する相談を行える様に受付を大きくし、カウンセリングスペースを新設している。

うすいクリーム色を基調とした内装仕上げは、床の大理石とフローリングを主体に木目と曲線を使い柔らかさを出し、窓の内部建具は障子とし、現代和風をイメージしたインテリアになっている。又、出入口の階段室からガラス越しに店内が直接見えない様にと、屏風をイメージした、カラフルな大小のビー玉を嵌め込んだスタッコアンティコ仕上の壁とし、その空間は四季のうつり変わりを表現できるディスプレイスペースとして提供して

いる。

特に重要なセットコーナーでの照明計画は「鏡の中の顔をいかに美しくみせるか」という事であり、今回非常に小型に設計されていて店内の雰囲気を乱さず有効な光を提供するジャックインシステムを採用している。ジャックインシステムの様な自然電球のソフトなスポットライトをあてる事により影の部分をなくし、表情をよりはっきりと健康的に見せる照明がインテリアの重要な要素の一つになっている。



ディスプレイコーナー



カウンセリングコーナー
受付カウンターとカウンセリングデスクを別々に設け、バックにお客様の貴重品等の収納を木目の壁面として見せる工夫。(床はフローリング)



セットコーナー
窓を一部つぶし、壁面に鏡を設け、ドレッサーとし、増加傾向にあるお客様に対応。

■ 賛助会員紹介

矢橋大理石株式会社 札幌営業所

代表者 矢橋修太郎 石工事業
担当者 川端 毅

〒060 札幌市中央区南1条西14丁目1-223 TEL. 011-241-4776
リバーストーンビル FAX. 011-271-8060

ヤマギワ照明システム株式会社 札幌店

店長 高野 英久 小売、卸業
担当者 高野 英久 (照明、家電、インテリア品、舞台照明)

〒060 札幌市中央区北1条西1丁目5-1 TEL. 011-221-1321
FAX. 011-261-6557

株式会社ヨコタ 札幌営業所

所長 和田 正輝 インテリア
担当者 弦間 一彦

〒004 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目2-20 TEL. 011-892-6551
FAX. 011-892-6686

リリカラ株式会社 札幌支店

支店長 大西 省二 内装材卸
担当者 紺野 郁男 (ブランドメーカー)

〒063 札幌市西区琴寒12条12丁目2-20 TEL. 011-666-2125
FAX. 011-666-3696

株式会社渡辺商店メブラ21

〒003 札幌市白石区菊水2条1丁目8-20 TEL. 011-812-5711

■木樽岡邸見学記

今回は趣きを変えて今迄のような新築ではなく築後13年と云う生活感のあるところを見よう、と云う事で建築家でありインテリアプランナー協会の副会長でもある木樽岡氏の住宅を拝見させて頂き、今迄の建物経緯や考え方などをお聞きしました。

「狭いアパートで育ちざかりの二人の子育てに疑問を感じマイホーム建設を計画、限られた資金から狭い土地を如何に有効に利用するか、加えて個々のプライバシーの確保、日照、眺望、積雪、自動車の騒音、出入りの問題など諸条件を考え土地選定に2年の月日かけた。

敷地面積60坪、傾斜地で擁壁があるため正味40坪と云う条件の中でいかに理想に近づくかに挑戦しました。

先ず配置計画は9m×9m角の平面を出るだけ南側へせり出し、北側のあいた部分を「コモンスペース」として緑と



雨宿り空間をつくり街並みとの連帯感を図った。よくあるこれ見よがしの塀、既製車庫、灯油タンクなど環境を破壊する要素は全て隠すことにし、道路とのコモンスペースに芝生や高木を植え道行く人々への微笑ましい投げかけを指向した。建物の外観や色についても



出来るだけ周囲にとけ込むよう配慮したつもりである。

建物は本来住み手がその生きざまに合わせて創りこんでいくべきもので、造り手は環境、予算、法規、住み手の与条件などを専門的に整合するくらいのお手伝いをするにすぎない。建築家の自邸はそう云う意味で造り手と住み手が一致し、良くも悪くもその生きざまが反映されるのではないと思う。この様な事を考えながら設計に1年程費やしてようやく着工となった。この建物は9m×9m高さ8.1mの鉄筋コンクリート壁式構造のボックスの中に螺旋階段を配しそれに部屋を掛ける形式をとっている。将来どう云う間取りになっても対応出来る様フレキシビリティをもたせた。

当初2層分の吹抜け空間では紙飛行機が飛ばせブランコが出来たが2年も経たずに和室が出来、その後は2階のアトリエ、地下に妻のアトリエを増やし、その為の階段、トイレの追加、全館建具取替等々、毎年どこかをいじっている。子供の部屋も大きくなったり小さくなったり、独立していたキッチンも料理中に家族の顔が見たいと妻のたつての要望でオープン型式に変更した。

インテリアは時と共に味わいがわいてくる様な材料を使いたい、素材の中に見いだされる様々な表情、輝きや陰り、温もりや冷たさ、堅さや軟らかさ、量感や肌ざわりなど空間に影響する「木」のぬくもり「コンクリート」の質感、新建材を使わない本物指向といった具合。

3階床の梁はそのまま表わし、床はナラのむく板、家具はカバの道産家具で木の温もりが欲しかった。今は木の梁が徐々にあめ色に変わりつつあり家具は子供達の傷痕が残り、この先どんな風に変色し

歴史がきざまれるのが楽しみである。

2階の居間は何んといっても眺望である。南面に7mの幅の大きな窓を設け熱線吸収ガラスのベアーにシングルガラス戸とツートンカラーのブラインド（夏は白、冬は茶）を使用しパッシブソーラーの効果を図ると共に遠くの山並みが一望に見渡せるようにした、四季折々の姿が満喫できるように。

生活の変化に対応するには暖房機器は邪魔である。このため全室すべて床暖房として室内のシンプル化を図った。メラメラと燃える炎は神秘的である、パチパチとはねる音は郷愁をさそい体の芯まで暖めてくれる。暖炉は空間を構成する道具として何んとしても設置したかった。休日は体力維持とあわせ、薪割りに余念がない。照明は白熱灯をベースに雰囲気づくりをフォローアップする。」など、熱っぽく語ってくれた。



参加者22名、木樽氏自づから作ったと云うタコとタクワンの薫製、梅生ビールに奥様の暖かい手料理の歓待を受けながら、年間灯油使用量620ℓの省エネ住宅とこだわりをもった「プロ」のノウハウに感心しきり、なごやかで有意義な一日でした。

◎編集後記

1Pニュースも7号目、世に云うラッキーセブンを迎えました。景気回復も含め新しい期待にむかっての新年号になってもらいたいものです。

情報委員会 小野 悟 野村光雄
湯上剛志 中井伸二 吉田 宏
新田信昭 吉本真知子

発行日 1994年1月
発行者 北海道インテリアプランナー協会
〒062 札幌市豊平区平岸6条10丁目1-58-414
北国の住まい相談所内
TEL(011)232-6761 FAX(011)232-6762
編集 北海道インテリアプランナー協会
情報委員会
印刷 株式会社 須田製版

■北海道IP協会支部活動報告

北海道IP協会の第2回総会（平成5年5月12日）で5つの支部が発足して半年が経過しました。しかしIPの内部にあっては会員数・活動費用・会員の職種・地域の広がり、IPの外にあってはIPの知名度・認知度等いろいろの問題があり、各支部の皆様も苦勞が多かったと思います。

今回、アンケート形式で各支部の支部長の方々に支部活動の内容・御苦勞・抱負を語っていただきました。5項目の質問に答えていただいております。

函館支部 田嶋英人支部長

- ① 函館地方林産技術普及プラザに参加しました。
94年は新日本建築家協会北海道支部主催の「ポケット展」が平成6年2月1日から2月6日まで函館会場にて行なわれますので、支部として参加する予定です。
そのための準備打合せを兼ねて、1月中旬に会員の新年会を予定しています。
- ② IP独自の活動を業務をとおして展開することが地方都市の場合は特に困難です。建築士が自己の業務又は職場の業務とは別に「とりあえず」IPの資格を取得したケースが多く、この現状もIPの質の向上にとってマイナスに働いていると思います。IPとしての活動を支援するためのデザイン力の向上につながる講習等が必要と思われる。
- ③④ 現在も行なわれている啓蒙及び広報活動、或いは講習会等IP内部への働きかけ及び外部、社会への働きかけがより積極的で活発であるべきだと思います。

旭川支部 上山勝己支部長

- ① 北海道東海大学芸術工学館にてインテリアプランニング賞を授賞された方々の作品展を計画しましたが、大学側の都合で秋以降に延期となりました。ところがその後、国際家具コンペ、建築士会全国大会と催しが重なって、年内の開催は断念せざるをえなくなりました。
- ② 支部活動のきっかけを作りたいと考えておりますが、会員個々の人達の忙しさの中で皆んなが揃うことも出来ず、何を考えても中途半端で、不安の中での考えとなっております。
- ③ 特にありません。
- ④ 平成6年2月に旭川インテリアコー

ディナータークラブ（代表・上山勝己）主催の「インテリアセミナー'94」の開催にあたって、後援にインテリアプランナー協会旭川支部の名を使いたいと考えています。この機会にIP会員の方にも集まっていたいただき、支部活動のきっかけを作りたいと考えています。

北見支部 式部佳和支部長

- ① FAXを配信することが、支部の存在のような平成5年でした。
- ② 郵便料金の値上げも決まり、ますますFAX通信が大切になると思います。しかしFAXが必ずしも一回でつながらないこともあり、職種の違いもあって、IP協会の存在価値もなかなか上りません。
- ③ 一般ユーザーへの認知度を高めていかなければIPの存在価値も上らないと思います。札幌の活動内容が報じられれば、地方もパブリシティとして大いに活用出来るのではないのでしょうか。
- ④ 支部や地方も取り込んだ活動でなければ、本物の活動にはならないと本部では考えていると思います。しかし札幌と地方のギャップは埋まりにくいと思っています。たまに地方出張などはいかがですか。

帯広支部 角田浩造支部長

- ① 平成5年6月初旬、インテリアプランニング賞入賞作品巡回展をアパートのコミュニティールームをお借りして行ないました。忙しい折、支部会員皆様が力を合わせ、準備・会場設営・撤収と予定通り終了することが出来ました。支部全員が何んらかの形で参加出来るイベントをくむことにより、会員相互の意志の疎通ができて満足しています。
- ② 会員増強につきますでしょう。会員が

アンケートの質問

- ①今年度の支部の活動
- ②今感じている問題点・悩みについて
- ③本部に対する要望・希望
- ④その他今後の進め方

増すことによって、多くの情報交換もでき、活動予算も増えるのですから。

- ③ 企業活動の中心的な皆様がIPのために活動していることに地方会員として感謝しています。
- ④ 幹事会にもあまり出席できず、申し訳なく思っています。本部の方々も多忙だとは思いますが、地方での話しあいの場も年に1回ぐらい作ってはどうでしょうか。道東・道北・道南のようなブロック別でも良いと思います。夏はキャンプをしながら一晩中話しあうのも良いと思うが……

釧路支部 三浦 啓支部長

- ① 支部が発足して半年が経過しておりますが、具体的な活動はまだできていない状態です。支部単独の活動、事業はなかなか難しい面もありますので、他団体との協同、協賛のかたちで会員の研修等に役に立つ企画をしたいと思っています。
- ② 支部自体の会員の少なさもさることながら、地域的に広域にわたるため会員が一同に会える機会をどのように設けるかが一番難しいと思います。
- ③ 釧路から会員各々が札幌に出張することは度々あると思いますが、総会にあわせて行くことはなかなかできる事ではありません。できれば本部の役員の方においでいただいて、懇談の席を設ける機会があればと思います。
- ④ 現在のところは会員の研修等を主体に活動したいと思いますが、ゆくゆくはIPの職能の広報活動などを行なっていきたいと思っています。